

○研究テーマ

若者のアイデア具現化・起業促進に向けた大学主催ビジネスプランコンテストの構築

-ポスト MAKE DREAM 構築に向けたケーススタディ-

○調査結果概要

本研究の目的は、若者のアイデア具現化・起業促進に向けた大学主催ビジネスプランコンテストの構築に向けた方策を提言することである。島根県立大学では学生ならではの視点で、浜田の地域資源を活用したビジネスプランを発表するアイデアコンテスト「MAKE DREAM」が年に1度開催されている。しかし、MAKE DREAMで発表した学生が起業した事例は少なく、かつ自身の起業には至らなくても、産業界にビジネスアイデアを実践してらい、アイデア具現化に至った事例も少ない。そこで、本研究では①地域の企業が担い手となって学生のアイデアを具現化につなげていくには島根県立大学、行政・支援機関によるどのような取組みが必要か、②学生が担い手となった起業につなげていくには島根県立大学、行政・支援機関によるどのような取組みが必要かという2つのリサーチ・クエスチョンを考察した。それを踏まえ、既存のMAKE DREAMが有する起業意識醸成の観点にビジネスアイデア発表学生のアイデア具現化、起業促進までを目的に島根県立大学、行政・支援機関等の連携による学生への伴走型支援を加えたポスト MAKE DREAM 構築に向けて提言する。

はじめに、学生のアイデア具現化による産業振興に関する研究、産官学連携による学生起業促進に関する研究を整理した。先行研究からアイデア具現化部分は①マッチング、②学生の起業家教育、③情報発信の3つの分析軸を導き出した。起業促進部分は、①マッチングよりも金銭的支援が必要不可欠であることから、④資金確保という4つ目の分析軸を加えた①情報発信、②学生の起業家教育、③資金確保の3つの分析軸から考察した。

次に、MAKE DREAM 主催者のはまだ産業振興機構及び筆者以外の過去の MAKE DREAM 参加者にインタビュー調査を行い、4つの分析軸から整理し MAKE DREAM の課題を明らかにした。①マッチングでは、ビジネスアイデアと連携事業者のすり合わせによる実現可能性の向上や、企業と学生の連携不足、②学生の起業家教育では、学生ならではのものの見方と発想力を活かした実現可能性の高いビジネスアイデアを作成する機会を構築や、ブラッシュアップ機会の構築、③情報発信では、情報発信の強化や、MAKE DREAM 開催意義の周知拡大、④資金確保では、起業するための金銭的支援の強化や市全体での学生起業支援の必要性などの課題が明らかになった。

さらに、兵庫県三田市商工会「ビジネスアイデアマッチング事業」を先進事例とし、関係者へのヒアリング調査から参考点を整理した。①マッチングについては、商工会の情報を活かした連携事業者の決定や、専門家によるコーディネート、②学生の起業家教育については、コーディネーターの伴走支援や、建設的なフィードバック、③情報発信については、産学官連携の情報発信や、コーディネーターの情報網を活用した来場者収集、④資金確保については、商工会のサポートや各事業者の金銭的負担可能範囲の把握の必要性などを参考点として整理した。

そして、4つの分析軸と調査内容から、実際に浜田市と島根県立大学が導入していくことを想定し、提言内容を時間軸と担い手で整理することで、ポスト MAKE DREAM の全体像を示しつつ、学生のアイデア具現化・起業促進を目的とするポスト MAKE DREAM 構築に向けた方策内容を提示した。「①マッチング」では、商工会の情報を活かした適切な学生と企業とのマッチングや、適切なコーディネーターとマッチングをするなどである。「②学生の起業家教育」では、ビジネスアイデア作成セミナーの実施や、起業家育成教育の機会創出などである。「③情報発信」では、商工会やコーディネーター経由での来場者収集や、若者の興味を惹くチラシを配布、掲示などである。「④資金確保」では、ポスト MAKE DREAM を組み込んだ創業支援プログラムの構築や、起業希望者に向けた利用可能創業支援紹介セミナー開催である。さらに、事前に連携する地域企業を島根県立大学を中心として、商工会・商工会議所とコーディネーター、行政機関等の連携により選定し、その地域企業の課題と学生に求める役割をあらかじめ設定することで、学生と企業が一緒にビジネスアイデアを作成するアイデア具現化に特化した「新応募コース」を作成することが有効だと考え、提言する。